

・5分前着席を心がけましょう

司式 熊田雄二牧師
奏楽 門脇陽子姉妹

前 奏
開 会 招 詞

* 賛 美 歌 3:1 力の主を

**力の主をほめたたえまつれ わが心よ 今しも目さめて
たて琴かきならしつ 御名をほめまつれ アーメン**

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 (詩編51編)

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。

わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。主イエス・キリストの御名によって。アーメン。

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
 2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
 3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰つしないではおかない。
 4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
 5. あなたの父と母を敬え。
 6. あなたは殺してはならない。
 7. あなたは姦淫してはならない。
 8. あなたは盗んではならない。
 9. あなたは隣人について偽証してはならない。
 10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。
- (出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 73:1 人よなが罪の

**人よなが罪の大なるを嘆き 悔いて涙せよ
このゆえキリスト 父のもとを去りこの世に来ましめ
死にたるを生かし 病を取り去り ついに時いたり**

人の罪のため 十字架の贖い 終えさせたまいぬ アーメン

共同の祈禱 祈禱書20 救済史①(命の契約・原福音)

天地のすべてのものを創造された、父・子・聖霊なる神さま、あなたは人間を神のかたちに創造し、すべてよきものを与え、地にあるものを支配するように命じ、命の契約を結んでくださいました。この祝福と光栄を心から感謝し、御名をあがめます。

しかし、わたしたち人間は、あなたの戒めに背いて墮落し、罪と死に支配される者となりました。それにもかかわらず、あなたはわたしたちを愛し、探し求め、救い主がサタンのかしらを打ち砕くとの喜ばしい約束を与えてくださいました。この約束が、キリスト・イエスの日に実現したことを、心から感謝します。

(創世記1～3、黙示録22、ローマ16、「聖書」一)

献 金 (黒) 大会開催日 (赤) 大会開催日 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 第一コリント11章17 - 34節 (新約聖書 3 1 4 頁)

説教・祈禱 礼拝は生命⑨「聖餐式」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 35 : 1 主にありてぞ

主にありてぞ 我は生くる 我主に主我に ありて安し アーメン

* 主の祈り 祈禱書1

天にましますわれの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが許すごとく 我らの罪をも許したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 66世をこぞりて

世をこぞりてほめたたえよ 御栄え尽きせぬ あまつ神を アーメン

* 祝 禱
後 奏 (黙禱)

報 告

松下保彦長老

I 礼拝指針

第六十八条（聖餐の定義）

聖餐の礼典は、主の晩餐とも呼ばれ、聖霊において、キリストの現実的存在が約束され、証印される。陪餐者は、キリストの苦難による贖いの恵みと、復活の主との交わりを得、主の再臨を待望する。

「パンとぶどう酒がキリストの体と血に変化する」というカトリックの化体説を、プロテスタントは否定します。そのうえで、ルター派と改革派が折り合わなかったのは、「キリストの現実的存在」です。ルター派は聖餐式の場でキリストの体は現実的に共に在ると主張しました。それに対し、改革派は、復活して昇天されたキリストの体は天に在るので、「聖霊において現実的」に在るとしました。ルター派の共在説が霊的共在説であれば、改革派と折り合いを付けられたでしょう。ドイツの宗教改革当時、ルター派の中に改革派に近い考えを持ったメランヒトンという人がいて、『ハイデルベルク信仰問答』を作った人々と交流がありました。

第六十九条（予告と準備）

聖餐式は、少なくとも執行される一週間前には、会衆に対して予告される。執行の際あるいはそれ以前の他の機会に、すべての者がこの聖なる祝宴にふさわしくあずかれるように、聖餐の礼典の性質についての教えと適切な準備のための勧めがなされる。

聖餐式執行の際、教えと勧めをする必要があるのは、神の言葉をいただくことが聖餐の本質だからです。御言葉が伴わないと、キリストの体と血に聖変化したパンとぶどう酒自体に効力があるとする化体説になりかねません。

「少なくとも執行される一週間前には、会衆に対して予告される」のは、聖餐にあずかるにふさわしいかどうか、自分を吟味するためです。その際、自分は清く正しい信仰生活をしているからふさわしいと思うのは間違いです。「丈夫な人には医者是要らない」のですから、キリストを必要とする魂の病人であること、「罪人を招いて悔い改めさせるため」ですから、キリストをいただく必要がある罪人であること、悔い改めにふさわしい実を結ぼうと決意すること、これらがふさわしい吟味です。

第七十条（聖餐式の回数と機会）

聖餐式は、しばしば行うことが望ましいが、聖餐式の回数と機会は、各個教会の小会が定める。牧師が不在であっても、代理の牧師、あるいは、小会は、同様に配慮する。

ミサの聖体拝領を攻撃するあまり聖餐式の回数が減ってしまうのはよろしくない、宗教改革第二世代のカルヴァンは考え、しばしば行うべきと主張しました。実際には陪餐者が多すぎて年4回くらいになってしまったのですが、カルヴァンの主張に賛同する牧師の方針によって毎週行なう教会もあります。上福岡教会では、月一度です。これが通常、日本で最も多いでしょう。

それにしても、「聖餐式の回数と機会は小会が定める」のはなぜでしょうか？ 「聖餐式のない礼拝はあり得ない」のだったら、小会が定める余地はないのです。牧師の中には「聖餐式のない礼拝はあり得ない」と主張する者もいます。それに、聖餐式という

のは重要な儀式なので、聖職者が扱うことではないかと思われます。確かに、儀式自体は牧師が執行します。それでも、礼拝指針は「回数と機会は小会が定める」と言っているのです。

ということは、「聖餐式は、しばしば行うことが望ましいが」、「聖餐式のない礼拝はあり得ない」というところまでは行かないのが、現在の日本キリスト改革派教会の教義です。そして、聖餐式も含めて、礼拝は小会が管理するのです。牧師交代によって、礼拝が急激に変化すると、信徒は戸惑います。だから、牧師の礼拝観や神学的信念も聞きながら、礼拝を管理するのは長老たちの任務なのです。また、年間スケジュールや月間スケジュール、主の日一日のシミュレーションでは知恵と分別を働かせる必要があるのです。「回数と機会は小会が定める」と礼拝指針は言っているのです。そこで、聖餐式執行は、小会の重要な決議事項となります。

第七十二条（聖餐式の形式）

会衆が着席したままか、聖餐桌の周りに集まって守るか、あるいは、パン、杯を掲げるか、掲げないとか、ぶどうジュースかあるいはぶどう酒かの選択、その種類など、執行の形式は、礼典執行者の判断にまかされる。

今、非常事態で聖餐式を行なうことができないのは残念ですが、通常、上福岡教会では、着席したまま行なうのが朝拝、聖餐桌の周りに集まるのが夕拝です。

また感覚的に味わう神の言葉ですから、「掲げる」のは見るためです。「掲げない」場合もあるのは、ミサに気を付ける必要があるからです。ミサの奉献＝奉げ方は、司祭が、キリストを生け贄として繰り返し神に奉げる行為です。キリストは、人の手によらず、自ら、ただ一度ご自身を神への生け贄とされました。

また基本的にぶどう酒を用いるのは、聖書に書いてある通りであるのと、感覚的に味わう効果のためです。ぶどうジュースは配慮のためです。未成年の陪餐会員、アルコール依存症の会員などを配慮する場合があります。

II コリント教会の聖餐式風景とパウロの命令・主の命令

1 21節を見ると、聖餐式と愛餐会とがごちゃ混ぜです。

33.34節によると、聖餐式と愛餐会の区別を指示しています。聖餐式は礼拝の中で秩序を保って行なうように整えられていったことでしょう。

2 23節「これは主から受けた私パウロが」と言っています。パウロは十二弟子と違って、十字架の死に至るまでのイエス様と一緒にではありませんでした。パウロが知っているのは、復活の主イエス・キリストです。そこでこれは、生きておられる主の命令に基づいていると主張しているのです。

3 だから、聖餐にあずかる信徒は、最後の晩餐のイエス様を想像するだけでなく、復活の主イエス・キリストが、今、命じておられることを覚えてパンとぶどう酒をいただくことをも求められているのです。

III 23～26節 制定の言葉

1 「これは主から受けた私パウロが」、とイエス様に命じられたように、以後、教会の

歴史で、牧師は、イエス様に命じられたようにしています。

24、25節は、最後の晩餐での主イエスの言葉がそのまま語られています。だから、説教壇に見えるのは小さい人間ですが、心の目では、大きなイエス様が語っておられるのを見るようにしましょう。

プロテスタント教会には大きいキリスト像も小さいキリスト像もありません。礼拝堂の聖餐卓を中心に、私たちが大きく包むキリストが、聖霊において現実に臨在しておられることを心の目で見ましょう。

2 契約の子や求道者も、見ることによって参加しましょう。日本キリスト改革派教会はオープンスタイルです。

(1) 聖餐式には、使徒信条くらいと同じ告白をして洗礼を受けている他教会の兄弟姉妹をも招きます。その場にいる幼児や求道者も、見て参加するよう招きます。やがて自分もあずかりたいと願うことが大事なのです。差別を感じる方もいますが、区別する理由を知っていただくことも大事です。

① 洗礼を受けていないと、まだ神の子として生まれていません。だから、まだ生まれていない子どもが食べるということはないのです。求道者は胎児の状態です。早く生まれてほしいと願いながら聖餐式を行ないます。

洗礼式は入会儀式ですから、一度だけ行なうクリスチャン誕生の儀式です。聖餐式は、神の子として生まれたクリスチャンが神の言葉を食べて成長していくことを表しています。だから、繰り返し行ないます。

② まだ信仰告白をしていない契約の子は、27～29節の「自分をよく確かめる」「主の体をわきまえる」ことが「ふさわしく」できるまでは待つのです。これを聖餐式の秩序としている教会が多いのは健全なことです。契約の子らが信仰告白する日を祈りつつ聖餐式を行ないます。

(2) しばらく教会から離れていても、陪餐停止の戒規を受けていなければ聖餐式に招かれます。教会を離れて別帳や除籍になることがあります。陪餐者停止の戒規ではないのです。除名は戒規です。信仰をやめますからと願い出た場合の除籍は戒規ではないですが、当然陪餐できません。信仰を守っている者には陪餐をとぎすことはありません。

IV 教会とは信徒の母

1 宗教改革は、人間を神に執り成す聖母マリアはじめ聖人たちを取り除きました。聖書は、神と人との間の唯一の仲保者はイエス・キリストのみと語ります。しかし、宗教改革者カルヴァンが言うごとく、教会は信徒の母です。カルヴァンは、聖母マリアを教会に置き換えた点で、賢明でした。

キリストが命令された二つの儀式は、教会の母性に関わることです。イエス・キリストを信じて洗礼を受けた時、信徒は神の子として生まれ、神を父なる神と呼びます。生まれた神の子たちは、神の言葉を食べて成長することが始まります。それを、聖餐式はパンとぶどう酒をいただくことによって表しています。だから教会は、神の子らを産んで育てる母なのです。だから、教会にしっかりつながり続ける信徒は、大きな母性を感じ続ける恵みを受けます。まだ信仰告白をしていない契約の子らと洗礼を受けていない

求道者も、この礼拝堂を母の胎内と思うことができます。

2 陪餐者の使命 26節

教会が神の子らを産んで育てること、これが伝道です。生きておられる主から命令を受けたパウロは、再び「主が来られるときまで」の、伝道の使命が念頭にありました。

伝道は再臨の「主が来られるときまで」の使命ですが、この使命は、聖餐式にあずかる全ての者に与えられた使命です。信仰と希望と愛をもって、言葉と行ないにより「主の死を告げ知らせる」者は幸いです。そのような者たちが集まる教会は「主が来られるときまで」祝福を受けます。